

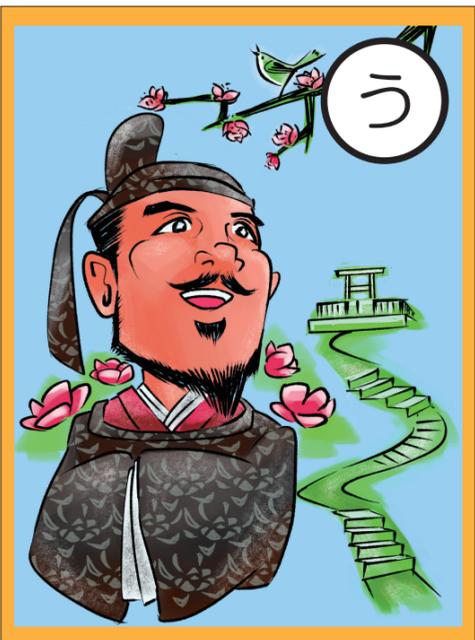
あ 飛鳥川  
わた 渡し六銭  
ろくまいばし 六枚橋

⑥ 六枚橋とは、太子町山田地区、竹内街道沿いにある飛鳥川に架かる橋のことです。その名前の由来については次のような言い伝えが残っています。その昔、この橋は6枚の板を渡して橋としており、6枚という数は「南無阿彌陀仏」の6文字になぞらえたものだ、という言い伝えです。また、橋を渡る人から通行料をとっており、三途の川の渡し賃にちなんで銭六文であったといひい伝えもあります。



い 今もなお  
どろかけじぞう 泥掛地蔵  
みまも 見守って

⑦ 泥掛地蔵とは、太子町太子地区にあるお地藏さんのことです。その昔、子どもの頬の腫物を治してもらおうと蓮池のお地藏さんにお参りをしていた母親の夢にお地藏さんが現れ、蓮池の泥を顔に塗ってほしいと頼みました。母親は早速お地藏さんの顔に泥を塗り、家に帰ったところ子どもの腫物はすっかり治っていました。その評判が広く知れ渡り、蓮池のお地藏さんはいつしか泥掛地蔵と呼ばれるようになりました。



う うぐいすの  
き きこえる  
こうとくりよう 孝徳陵

⑧ 第36代孝徳天皇の陵墓です。孝徳天皇は、蘇我氏の横暴に対し、中大兄皇子・中臣鎌足が起した「乙巳の変」の後、即位し、日本最初の元号である「大化」を定め、中大兄皇子とともに改新政治を進めました。孝徳天皇陵は、竹内街道沿いにある直径約30メートルの円墳で、他の天皇陵と比べると小規模ですが、大変美しい古墳です。枕草子に記されている「うぐいすの陵」は孝徳天皇陵だと言われています。



え 叡福寺  
たいしねむ 太子眠る  
しながびよう 磯長廟

⑨ 叡福寺は、推古天皇が聖徳太子の御廟を守るために建立したお寺です。古くから聖徳太子信仰の聖地として発展し、空海や親鸞といった高僧も参籠したと伝わっています。戦国時代には織田信長の兵火で焼失しましたが、江戸時代に豊臣秀頼によって聖霊殿が再建され、次第に再建が進みました。聖徳太子の命日にちなんで、毎年4月11日に大乗会式が行われ、「太子まいり」と呼ばれ親しまれています。



お 小野妹子  
ざい わた 隋へ渡った  
けんざい 遣隋使

⑩ 小野妹子は、中国大陸の技術や制度を学ぶために聖徳太子によって隋へ派遣された、遣隋使として有名な人物です。聖徳太子が四天王寺建立の用木を集める際、京都に建てた六角堂の初代住職となり、朝夕仏前に花を供えたことが華道の始まりと言われています。そのお墓は小高い丘の上にあり、華道家元・池坊が毎年6月30日に墓前祭を行っています。桜の名所「しもきた」として親しまれています。